

このホームステイは、グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するため、市内の中学2年生の生徒を派遣する事業で、今回で3回目となります。参加者は14人。昨年度申し込みがあった54人の生徒の中から、面接を経て選ばれました。生徒たちはオーストラリア・メルボルン市に滞在。滞在期間中、一人ずつ受け入れ先となった家庭に分かれ、家族の一員として生活しました。現地の小学校の授業では、日本や安曇野市の紹介、日本の運動会で行われる「大玉送り」を現地の子どもたちに説明し一緒にやりました。

また、5月28日には、帰国報告会が市役所で行われ、生徒たちは、現地での生活の様子などを報告し、英語や異文化に対する自分の気持ちの変化などを思い思いに語りました。

生徒たちの体験作文集は、学校教育課（3階7番窓口）または市ホームページでもご覧いただけます。

図 学校教育課学校教育係  
TEL 71・2460 FAX 71・2338

滞在地と日程



日程

- 3月18日(土)  
安曇野市⇒成田国際空港  
成田発カンタス QF80 便にてメルボルン国際空港へ
- 3月19日(日) 【ホームステイ】  
メルボルン国際空港着  
バスで市内観光  
ウェルカムパーティー、ホストファミリー・ホストスクール校長紹介  
終了後、各ホストファミリー宅へ移動
- 3月20日(月)～22日(水) 【ホームステイ】  
Stella Maris Primary School (小学校) で通常授業に参加  
子どもたちと大玉送り  
校長より各生徒へ修了証の授与
- 3月23日(木) 【ホームステイ】  
Kilbreda College (中高等学校) で生徒交流会市内見学 (公共機関を使って市内を移動)
- 3月24日(金) 【ホームステイ】  
観光、オーストラリアの動物との触れ合い、ゴールドラッシュ当時のオーストラリアの歴史や当時の街並み、生活を体験
- 3月25日(土) 【ホームステイ】  
各自ホストファミリーと観光、ショッピング
- 3月26日(日) 【ホームステイ】  
ホテルに集合、ホストファミリーとお別れ市内で観光、夕食
- 3月27日(月)  
メルボルン国際空港発カンタス QF79 便にて成田国際空港へ  
成田国際空港着 ⇒ 安曇野市

輝いた10日間から学んだこと

あおきりな 青木里奈さん  
明科中



私がオーストラリアで学んだことは、英語による会話で深く話すことはできなくても、お互いを思いやる気持ちさえあれば伝えたいことが伝わることです。これは、常日頃家族・友達とのお付き合いの中で重要だということをや遠く離れた環境で改めて勉強することができました。私はこの貴重な経験を自分の将来に活かし、安曇野市の発展のために貢献できるよう頑張りたいと思います。

出発前の激励式。(上段左から敬称略) 曾根原嵩大、青木里奈、庭屋あおい、堀内咲希、伊藤朱里、石川愛理、宮本優子、醍醐葵、松田鳳羽、池田修悟 (下段左から) 渡部日向子、二木絵梨、(下段右から) 茂原和奏、内山心乃

Difference And Learning

ほりうちさき 堀内咲希さん  
堀金中



オーストラリアはたくさんの学びと日本との違いで溢れていました。特に考え方の違いに私は大きな刺激を受けました。現地の小学校では全員が何事も真剣に考え、それを発言していました。私ももっと伝えることを意識して生活しなくてはと思いました。

また、まだまだ英語も日本についても勉強不足だと実感しました。更に勉強に励み、何事にも興味を持ち、挑戦して、将来世界に貢献できる大人になりたいです。そして、もう一度メルボルンを訪れたいと思っています。

このホームステイは、グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するため、市内の中学2年生の生徒を派遣する事業で、今回で3回目となります。参加者は14人。昨年度申し込みがあった54人の生徒の中から、面接を経て選ばれました。生徒たちはオーストラリア・メルボルン市に滞在。滞在期間中、一人ずつ受け入れ先となった家庭に分かれ、家族の一員として生活しました。現地の小学校の授業では、日本や安曇野市の紹介、日本の運動会で行われる「大玉送り」を現地の子どもたちに説明し一緒にやりました。



ホストスクールの授業に参加



子どもたちに空手を披露



現地中高生との交流会



王立展示館で記念撮影



休み時間は子どもたちと外へ



ホストスクールで大玉送り



ホストファミリーとの別れ

中学生海外ホームステイ報告

国境を越え学んだ宝物

3月18日から27日まで、オーストラリア・メルボルン市へ、市内の中学生14人がホームステイしました。中学生たちの交流の様子や体験を通じて感じたことなどを紹介します。



わさびの味は成長の味

いとうあかり 伊藤朱里さん  
三郷中



「分からない」だらけで初めは困りましたが、「伝える」という事を意識すると、少しずつ意思が伝わり、言葉の壁を越える事ができました。オーストラリアでは、個性が尊重されているから、みんな色々な事に挑戦できるのだと思います。今回のホームステイで、沢山の温かさに触れることができました。

最終日、今まで苦手だった安曇野市のワサビをホストファミリーと食べたら、「おいしい」と感じました。そんな事からも自分が成長したような気がしました。

Thank you Australia

うちやまここの 内山心乃さん  
穂高西中



ホストファミリーやステラマリス小学校 year1pB の子どもたちと過ごした数日間。ステラマリスの子どもたちとたくさんハグした事。「I love Kokono」と書いた手紙を貰った事。中学生と恋ダンスを踊った事。ホストファミリーは、本当の家族の様に接してくれて様々な経験をさせてくれました。皆に「Kokono」と呼ばれる度、自分の英語が伝わっていると感じました。お別れの時、離れたくなくて号泣している私に家族全員でハグをしていてくれました。オージーの優しさを知った10日間でした。また絶対にオーストラリアに戻ってきます！

英語は伝えるための道具

みやもとわこ 宮本優子さん  
豊科北中



私はこのホームステイに行くまでは、英語はただの勉強くらいにしか思っていませんでした。しかし、いざホームステイに行き、生きた英語に接する中で、私は「分からない」「通じない」を経験し、英語は勉強なんかではなくコミュニケーションツール、伝えるための道具であることに気づきました。

英語は私に私の全く知らない世界と、広がっている自分自身の可能性を見せてくれるものでした。それを知った今は、英語をもっと勉強して海外に行きたいと強く思いました。

